

教育方針	真理と正義を愛し、勤労を尊び、責任を重んじ、人間として調和のとれた、心身共にたくましい生徒を育成する。	重点目標	明るく元気に、心豊かで力強く未来を拓く生徒を育成する —精神を修め、知と技を練る吉田高校—
------	---	------	--

<マニフェストに関すること>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	よく分かり意欲を高める学習指導の充実	生徒の授業満足度平均4.0以上(1から5の5段階評定)を達成する。 A: 4.0以上 B: 3.5以上 C: 3.0以上 D: 2.5以上 E: 2.5未満	A	生徒による授業評価アンケートを全教職員で集計した結果は、1学期4.7、2学期4.8、平均すると4.7であった。ほぼ目標は達成されている。	少数ではあるが、授業評価の低い生徒もいる。各教科・科目において、授業内容を分析して授業改善に努めていく。
	学習習慣を定着させる課題指導の充実	平常時学習時間平均60分以上、調査時学習時間平均120分以上を達成する。 A: 60分以上(調査時120分) B: 50分以上(調査時100分) C: 40分以上(調査時80分) D: 30分以上(調査時60分) E: 30分未満(調査時60分)	B	平常時学習時間の平均が44分、調査時学習時間平均が134分であった。調査時は、調査に向けて充実した学習が行われ、学期を追うごとに学習時間が増加したが、平常時の学習時間が不足している。	平常時の家庭学習を定着させるために課題等の取組を各教科で検討していく。また、工業科の学習時間が不足している生徒が多いので何らかの対策を考える必要がある。
	読書習慣を身に付けさせると共に地域の先人に学ばせる指導の充実	図書の年間貸出冊数一人あたり2冊以上、朝読書年間45日以上の実施を達成する。 A: 45日以上 B: 40日以上 C: 35日以上 D: 30日以上 E: 30日未満	B	一人あたりの貸出冊数は、1月末時点で2.03冊であり、目標を達成できた。 朝読については、行事や集会等で実施できない日もあり、45日には満たなかった。	図書室の環境整備と蔵書点検、システムの改善を進めており、利用しやすくなったという声を聞く。以前よりも図書室に足を運ぶ生徒が増えたが、未だ偏りがあるため、多くの生徒に借りてもらえるよう、働きかけを行っていきたい。 朝読については、今年度よりも期間を長めに設定して、読書の時間を確保したい。
生徒指導	規則正しい学校生活を送らせる指導と健康教育の充実	年間出席率平均98%以上、一か年皆勤率55%以上、年間欠席日数5日以上を5%以内を達成する。 A: 98%以上 B: 95%以上 C: 90%以上 D: 80%以上 E: 80%未満	A	年間出席率平均99.4%、一か年皆勤者183名54.3%であった。また、年間欠席日数5以上の生徒は、休学者を除き15名4.5%であった。大部分の生徒が健康で充実した高校生活を送ることができている。	将来の進路や職業について、できるだけ早期に決定できるようにホームルーム活動等で指導を行う。それにより、高校生活の目標を設定して、学習意欲を喚起し授業の大切さを再認識させる。また、部活動等を通して、体力や忍耐力を高めていく。
	あいさつ・身だしなみ・交通等規範に関する指導の充実	身だしなみ指導最終合格率100%、登下校時の交通事故0件を達成する。	C	身だしなみについては生徒全員がルールを理解し、よく守れた。交通事故では5件発生し、車との接触または衝突事故が2件あった。重大事故の発生を想定し、注意喚起を施すべきであった。	身だしなみの項目をできる限り見直し、社会が求める人材像に合わせた指導を行う。挨拶やルール遵守ができる吉田高生を育てる。交通事故「0」の啓発に取り組みたい。
	部活動・学校行事の充実	部活動加入率90%以上、県大会上位入賞、体育・文化部含め2部以上、生徒の学校行事満足度平均4.2以上(1から5の5段階評定)を達成する。 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 60%以上 E: 60%未満	C	部活動加入率の目標数値は90%を越えたが、県大会での上位成績は残念ながら達成できなかった。また、多くの学校行事がやむなく規模縮小となり、満足度を達成するには至らなかった。意欲的に参加した生徒(4段階評定平均3.4)	部活動加入率90%以上、県総体出場者100名以上、上位入賞(県ベスト4)2部以上が達成できるように教職員が一丸となって志気を高め、また魅力ある学校行事の開催を目指し、生徒会を中心に計画し実行していく。生徒の学校行事への意欲的参加評価を平均3.4以上(4段階評定)を目指す。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	生徒一人ひとりの適性に合った進路指導の充実	就職試験一次合格率90%、就職決定率100%、第一志望校合格率90%、進学決定率100%を達成する。 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：75%以上 E：75%未満（合格率）	A	就職試験一次合格率96%（昨年度97%） 就職決定率98% 2月18日現在（昨年度100%） 進学第一志望合格率92%（昨年度95%） 進学決定率97% 2月18日現在（昨年度98%）	進学先や就職先の情報収集や、オープンキャンパス・応募前職場見学への積極的参加を促す。また情報提供にも努める。 各科や学年団等と連携を取り、進路実現に向け、個に応じた指導（面接、小論、補習）の充実を図る。
	インターンシップによる職業観育成指導の充実	インターンシップの満足度平均4.5以上（1から5の5段階評定）を達成する。 A：4.5以上 B：4.0以上 C：3.5以上 D：3.0以上 E：3.0未満	C	生徒の満足度は、3.8。（1～4の4段階評定）（昨年度4.1（1～5の5段階評定））	今年度は、コロナ禍の影響を受け、病院や保育所等での就業体験が実施できなかった。この点も含めて、受け入れ先選定についてさまざまに考えたい。受け入れ先との連携をしっかりと、活動内容等の充実につなげたい。 事前指導を通して、就業体験の意義を生徒に理解させ、積極的に体験に臨めるよう促したい。
	検定資格取得指導の充実	工業科検定資格取得平均2種目以上／人を達成する。	C	工業科検定資格取得平均2種目以上／人を目指しているが、新型コロナウイルスの影響で実施されなかった検定資格等もあり、今年度取得平均1.2（昨年度1.3）であった。学年別取得平均は、1年生2.9、2年生0.6、3年生0.2であった。	1年生の早い段階から進路を見据えた資格取得を指導する。 補習を強化し合格率の向上も目指す。
人権・同和教育	いじめを許さない態度を育てる指導の充実	いじめ調査を各学期1回以上実施する。 いじめの未解決事例件数0件を達成する。	C	「生活と人権に関するアンケート」を各学期1回行い、いじめに関する調査を行った。調査で気になった生徒については、その都度担任が聞き取りを行い、状況を確認して対応している。アンケートによる評価は3.4で90%の生徒がいじめ防止への取組に「満足できる」「ほぼ満足できる」と回答している。	「人権だより」等を活用して、いじめ問題に対する啓発に努めるとともに、日頃から生徒の動向に気を配り、教職員共通認識のもと、いじめの積極的認知に努める。
	人権委員会活動の充実	「人権だより」を年間6回以上発行する。 人権委員会の発表を年間3回以上実施する。 A：6回以上 B：5回以上 C：4回以上 D：3回以上 E：2回以下	B	「吉高人権だより」を毎月発行した。人権委員会も、7月、12月の全校集会での発表及び、文化祭での手話コーラスや展示発表に積極的に取り組んだ。また、初めて人権委員会夏季研修会を開催し、外部の方との座談会を行うなど、充実した活動ができた。	「吉高人権だより」の内容の充実を努める。 人権委員会の活動を、より生徒主体のものになるよう工夫していく。
	地域・保護者に開かれた人権・同和教育の充実	人権・同和教育ホームルーム活動を年間2回以上公開する。	B	公開授業は実施できなかったが、愛媛県高等学校人権・同和教育研究指定校研究発表会に、宇和島市や地域の各団体の方にも参加していただき、意見をいただくことができた。	より多くの方に参加していただけるよう、様々な機会を利用して公開授業や講演会の周知を図る。
交流教育	地域でのボランティア活動参加を促す指導の充実	各種ボランティア活動への参加平均2回以上／人を達成する。	C	コロナ事情により活動自粛をすることになり達成できなかった。ただし、みかん収穫ボランティアや吉田の川そうじボランティアなどできる範囲での活動もみられた。	ピュアマインドの参加率を上げる。各種ボランティア依頼についてはクラス掲示をし、自主的にスムーズな活動が行えるようにする。
	地域の先人に学ばせ地域に貢献する心を育成する教育の充実	地域の福祉施設等での活動への参加者年間延べ200人以上を達成する。 A：200人以上 B：150人以上 C：100人以上 D：50人以上 E：50人未満	E	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設訪問などができず、交流活動は行えなかった。	福祉施設等への訪問活動による交流は今後も難しいことが予想される。リモートの利用など新しい交流の方法も考えていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
環境整備	公共物を大切に、環境保護に努める意識を育てる指導の充実	美化委員会による学期に1回の校内点検を実施する。 美化委員会の発表を年間1回以上行う。	C	校内点検は、学期に1回、年3回実施し、清掃が不十分な箇所について改善を行い、校内美化に努めた。新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う臨時休校のため、予定していた美化委員の発表を行うことができなかった。	生徒数が減少しているが、清掃方法・ゴミの分別を徹底し、校内美化に努める。また、美化委員会の活性化に努め、環境保護の意識の高揚を図る。
	施設設備の安全点検と事後処理	施設設備の安全点検と事後処理を、全教職員の協力のもと適切に実施する。	C	学期に1回、年3回の定期点検の他、随時点検を行い、改善が必要な箇所については予算面で可能な限り対応できた。	安全点検を確実にを行うため、目的の周知を図る。また、随時点検の実施や連携を行うことにより、素早い改善ができるよう努める。

<マニフェスト以外に関すること>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育相談・保健活動	教育支援的な相談体制の確立	生徒が気軽に相談できる体制を整えるとともに、外部機関との連携を図る。	B	生徒個人面談等を通して、生徒一人一人の状況を把握し、悩みや問題等に対応するよう努めた。また、スクールライフカウンセラーとの連携により、生徒だけでなく保護者との相談も行い、家庭と協力して問題の解決に取り組むことができた。	教育相談窓口の一層の周知に努めるとともに、教職員間の情報共有や、スクールライフカウンセラー、外部の関係機関等との連携により、生徒の不安や悩みに対応していく。
	健康教育・保健活動の充実	健康に関する講座の実践や保健だよりの発行により、生徒の健康意識の高揚及び行動化を図る。	C	保健だよりの発行や、外部の専門機関と連携した講演会の開催などを通して、生徒の健康への関心を徐々に高められている。しかし、教室の換気が不十分であるなど行動化に結びついていない場面も見られる。	保健だよりの発行や講演会については継続して実施していく。また、生徒に保健だよりを作成させたり、教室等の掲示物を工夫させたりすることにより、健康意識を高揚させ、行動化に結びつくような取組を行う。
工業教育	ものづくりを通じた人づくりの展開	地域産業との連携を図り、見学や体験学習を通して実践力と人間力を高める。 工場見学年7回以上、匠の技教室年35回以上を実施する。 ものづくりコンテスト四国大会、全国大会の出場を達成する。 A：35回以上（見学7回） B：30回以上（見学6回） C：25回以上（見学5回） D：20回以上（見学4回） E：20回未満（見学4回）	C	工場・現場見学は、新型コロナウイルスの感染状況等を配慮して2回、延べ3社で実施した。匠の技教室は6職種延べ16回実施し、その内3回はクラス単位で体験した。後期技能検定の合格発表は3月12日である。 ものづくりコンテスト木材加工部門は、新型コロナウイルスの影響で中止となった。	工場見学や匠の技教室を多く実施することで、生徒が興味関心を持ち、将来地域産業のスペシャリストとして活躍できるよう今後も指導を継続する。
P T A 活動	協力体制のとれたP T A諸活動の実施	学校とP T A諸活動（総会、交流会等）を、協力体制のもと適切に行う。P T A理事会参加率70%以上を達成する。 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：55%以上 E：55%未満	C	新型コロナ対策で各行事が制限される中、役員さんには精一杯の活動をしていただいた。理事会においては第1回が書面開催、第2回が縮小開催となり数値目標達成はかなわなかった。	例年通りの情報発信に努める。
事務	経費の節約と円滑な事務処理の徹底	効果的な予算執行を行う。	B	県費需用費上半期執行率 75.8%（前年度69.5%）。県費（公費）、私費ともに早期の予算執行を心掛けた。	職員からの要望を収集し、早期実現に努めることでより効果的な予算執行を行いたい。
		適正かつ円滑な事務処理を行う。	C	概ね適正に事務処理を行うことができた。	職員間で事務処理方法について共通理解を図り、より適正な事務処理が行えるようにしたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	C	一部の業務で業務が個人に偏る傾向がみられた。	時間のかかる業務を複数人数で分担できるようにしたい。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的に行い、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	C	健康相談を実施し、相談に応じることができた。	次年度も継続して行いたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。